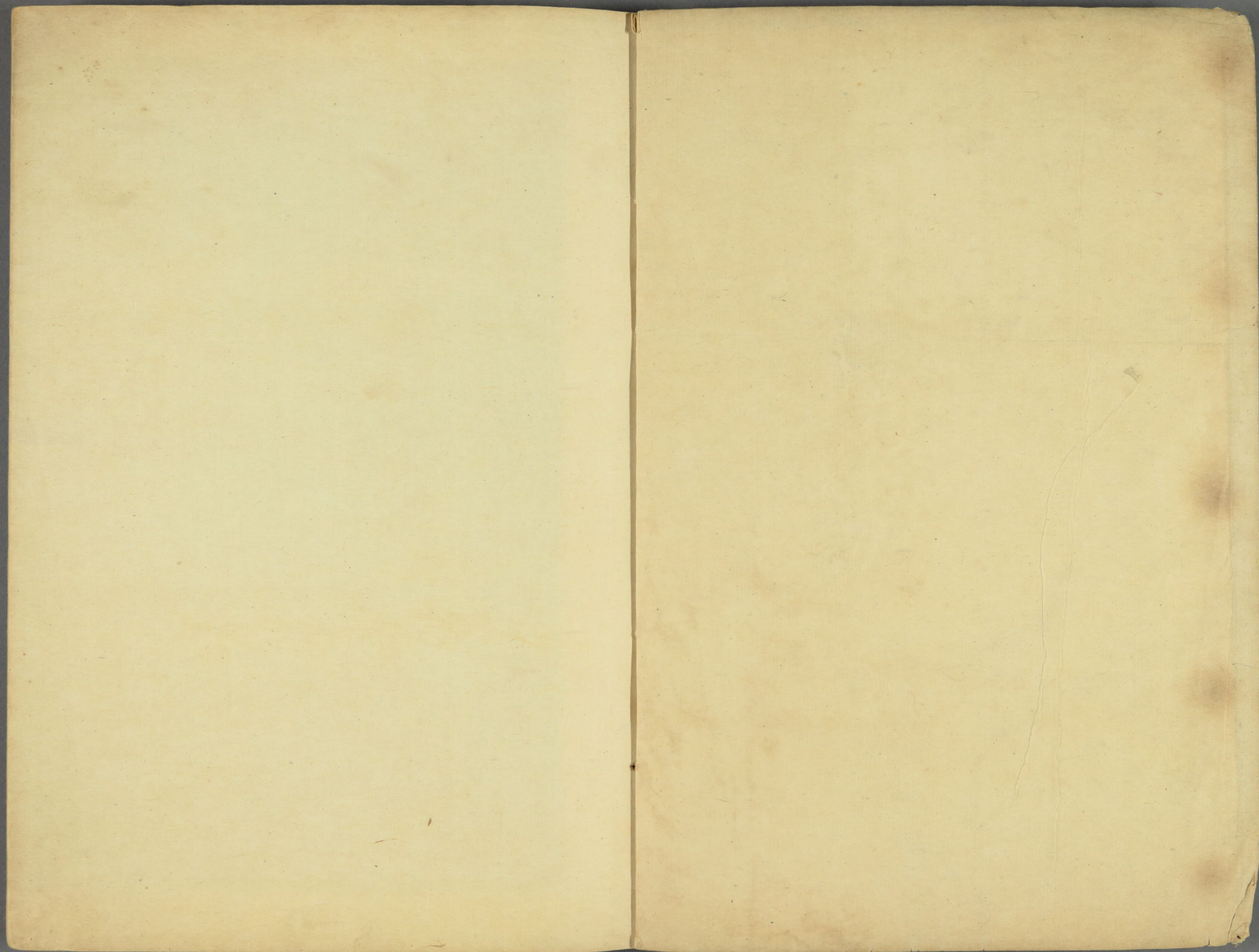


好古書心のまじり







花 林

酒

己卯桂月
石子題

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 8 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 8 lines of cursive script.

離屋立圃百像

正伯画 自賛

絹本着色 置物長二尺六寸五分 横七寸九分半
寶八上子あり 全幅編寫 谷文晁の本朝画集に



伊藤聽雨蔵

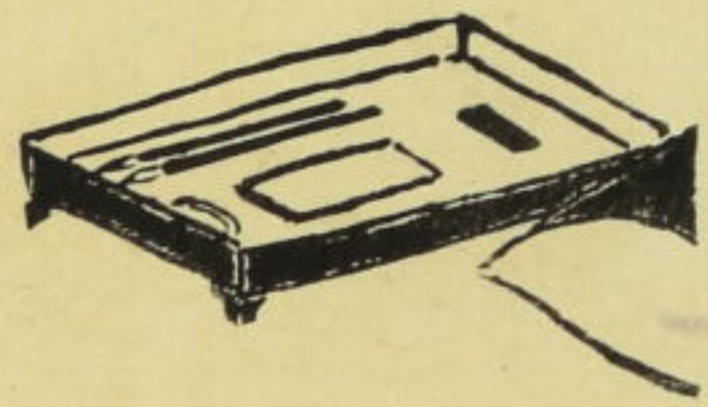


是を我像なりとて思甚生白

りて思甚生白

かきとくにえやハ

能い乃てえん玉



三代目高権真照 全文畧

三浦庄北花母より遷りて文一を移通名宛皆同一巻末に別人乃と云云延宝三年の公
三代目初と明証して是則子持と尾
名宛ハ裏書あり
以上柳亭の考より延宝年代記の説を標す

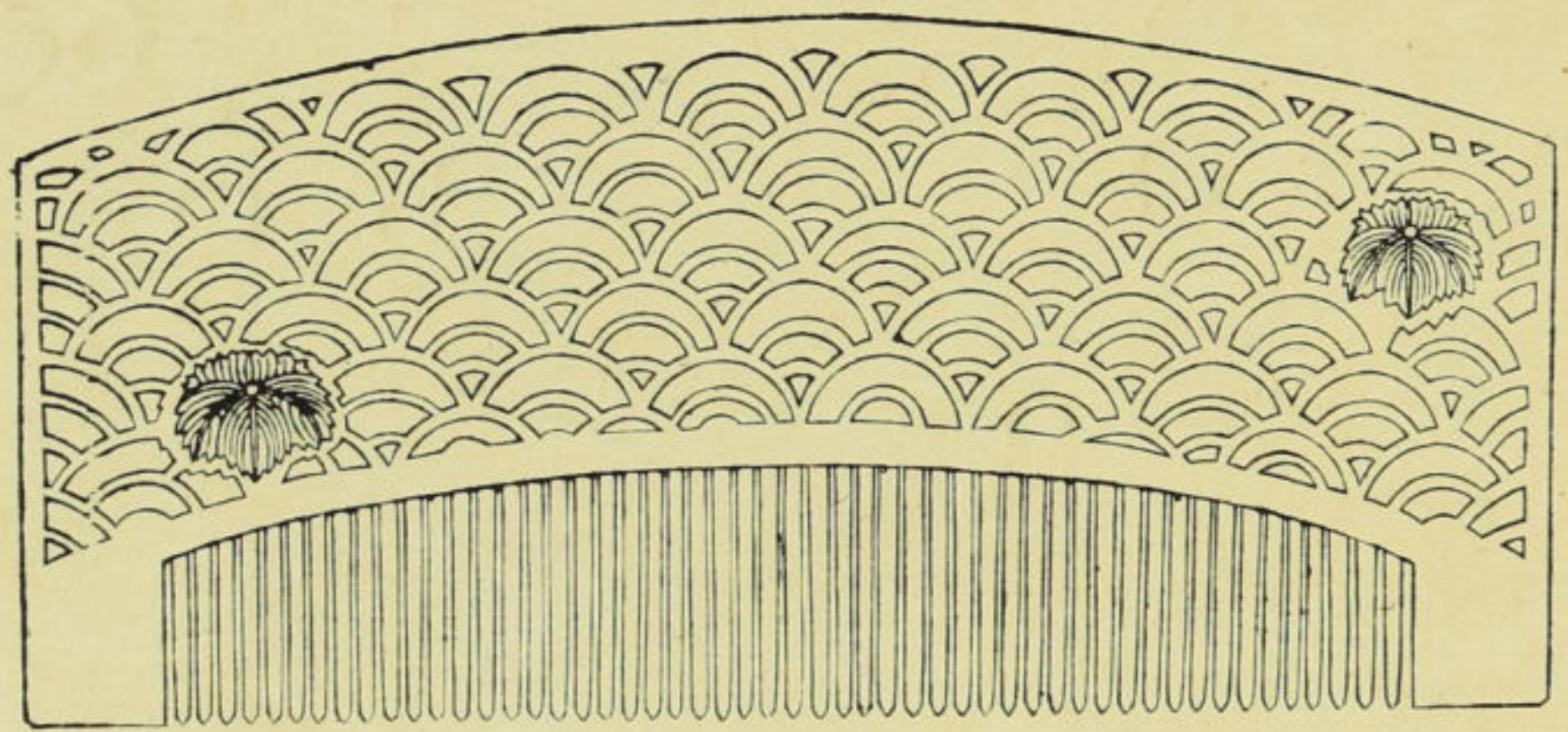
長井十足蔵

三代目高権真照
全文畧
三浦庄北花母より遷りて文一を移通名宛皆同一巻末に別人乃と云云延宝三年の公
三代目初と明証して是則子持と尾
名宛ハ裏書あり
以上柳亭の考より延宝年代記の説を標す

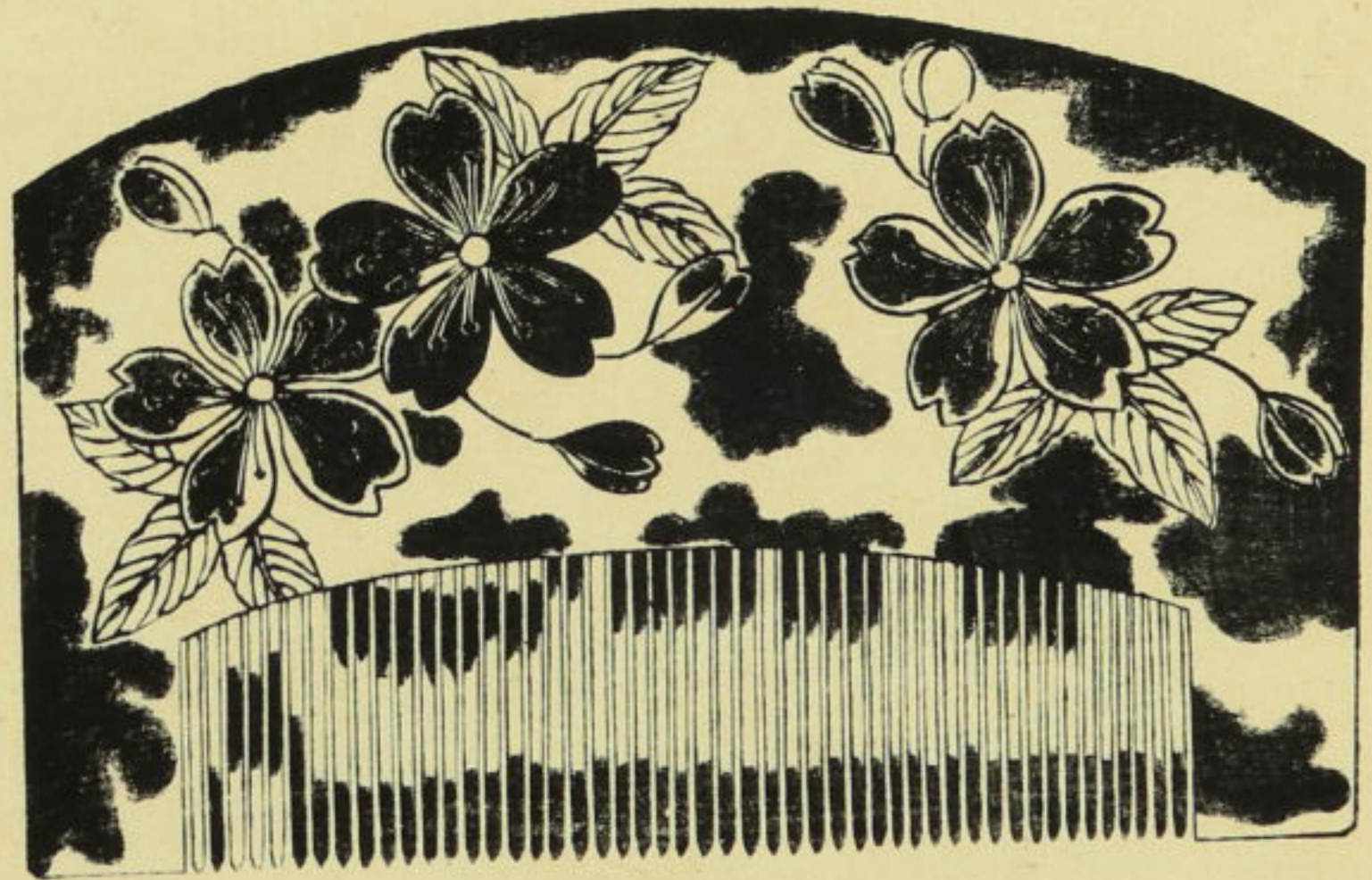
三代目高権真照
全文畧
三浦庄北花母より遷りて文一を移通名宛皆同一巻末に別人乃と云云延宝三年の公
三代目初と明証して是則子持と尾
名宛ハ裏書あり
以上柳亭の考より延宝年代記の説を標す

天和貞享の流乃さし様
 華甲惣すうく大如圖

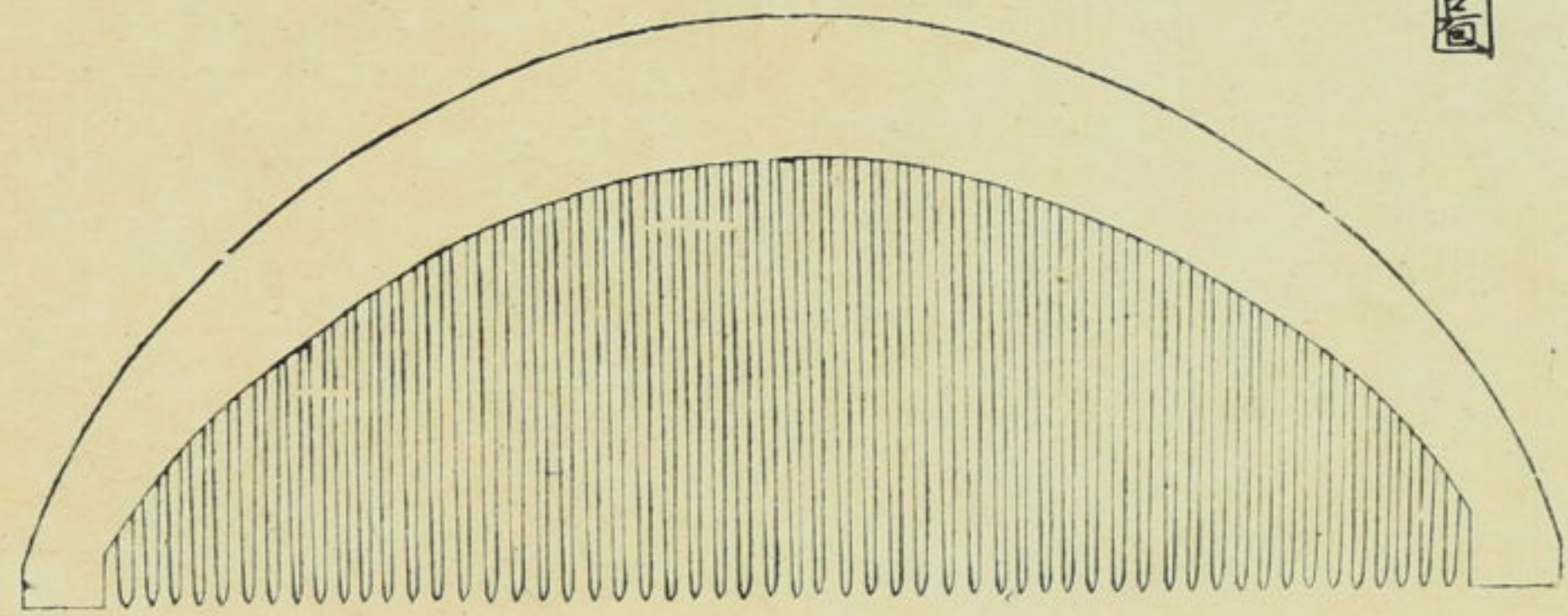
柏本政矩藏



下地朱塗の上惣金箔押
 両面とも同模様中の花二種
 滔を置りけ大如圖



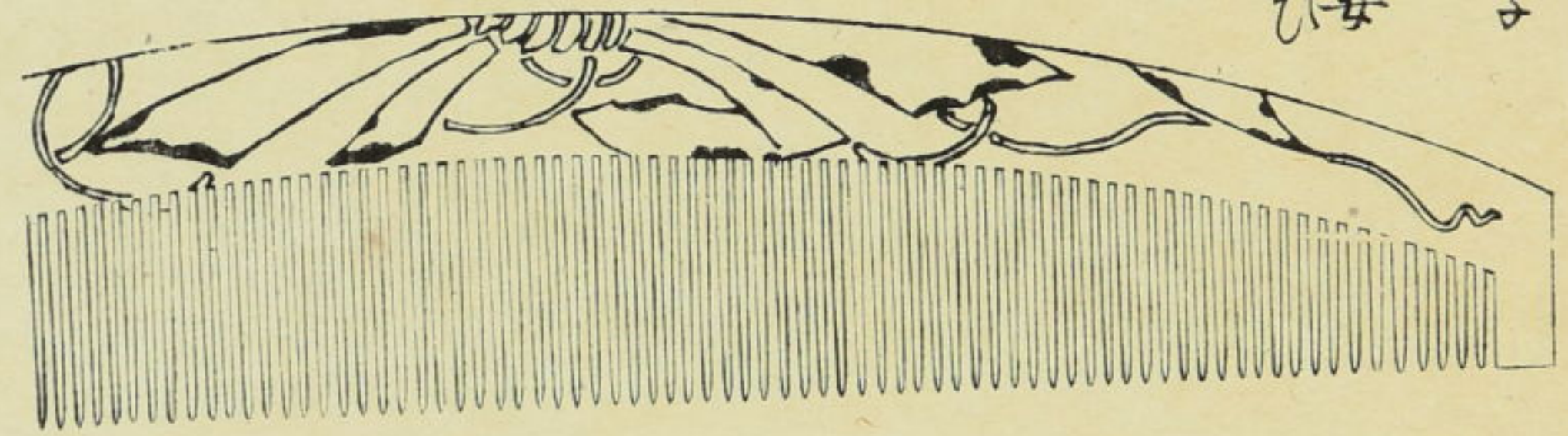
金地金大如圖



首簾集
 徳文正徳とて形十年季 秀儀
 朱ぬりの様ハ誰えつゝ望 渭舟
 宋仲楊吟歌仙
 関の地産貨唄「ゆりすく
 角梳を下詰の齒がみまをこれ
 享保のころ此形の櫛乃流行せし証と
 せし也」
 上に出せる丸形の櫛も同時代此の式

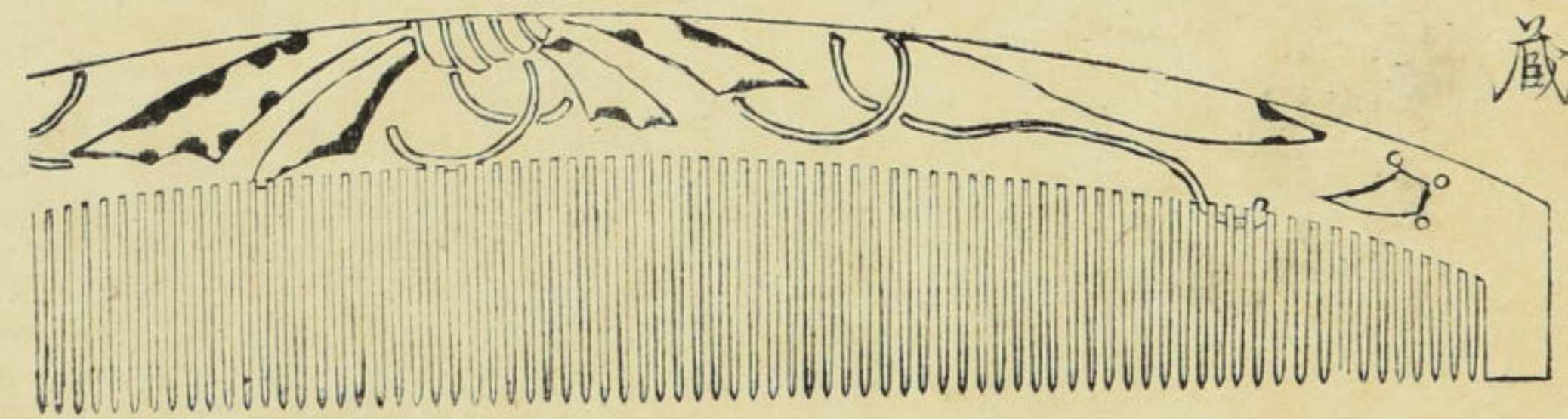
右二種 華泉藏并誌

伊須本地履斗丁子
 藤給さし拵
 京都島原の遊女
 吉笠の所持といひ
 けしよ



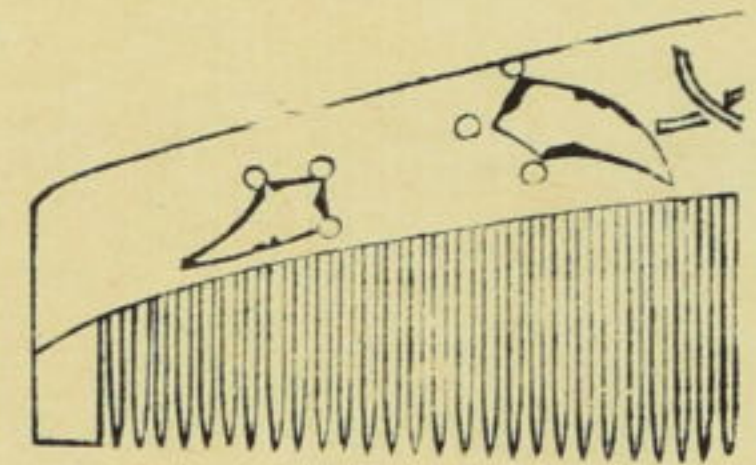
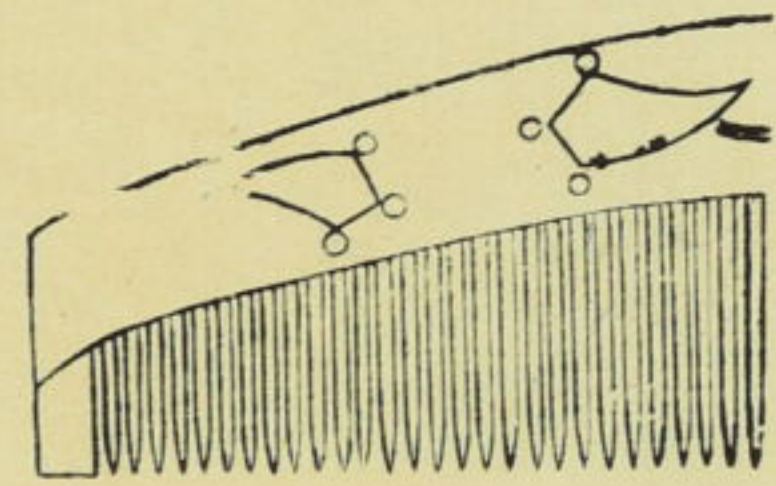
柏本政矩蔵

大如圖
 同裏



友禪画

紙半寸切港著毛



長井十足蔵



東京
 禪

仙臺藤根原家藏高尾小袖之裂
文蘇二尺三寸五分、三分
 地粟皮茶色横括捲大如圖

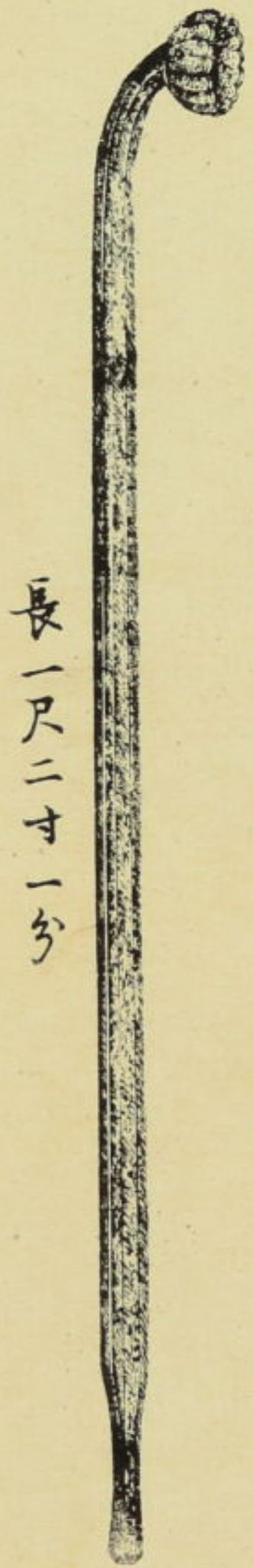
三浦乾也藏
明治十年九月三浦氏より得たり
 惣三堂中の複製と云きり



鐵煙管 二寸一編圓

柏木探古藏

著録は徂来先生の鐵煙管の賦を載す按きり
 當時の製此世は流行せしこと思ふ也



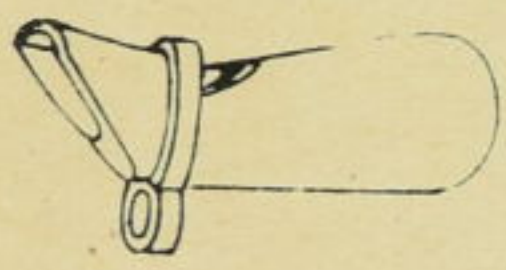
長一尺二寸一分

赤穂義士所持呼子篋

大サ如圖鉛板表ありて中に鉄を包
 生ト歌口ハ檜を切ちめしりとの也

畠山如心齋藏并寫

復讐の夜携ふる所ありて當時江戸住紀州
 浪人三宅伴左衛門定秀なる者其翌五朝
 吉良邸内に於て拾ひ得りしものなり定秀ハ
 後年水戸家より仕へしといふ近頃茨城録
 士族某より之を得て収む



赤穂浪士村松三右衛門手簡

横山由清蔵

是れ浪士の村松
三右衛門の御名
りき大に長巻
の紙ありき
是れ浪士の御
名三右衛門
の紙ありき

あつたての御名
りき大に長巻
の紙ありき
是れ浪士の御
名三右衛門
の紙ありき

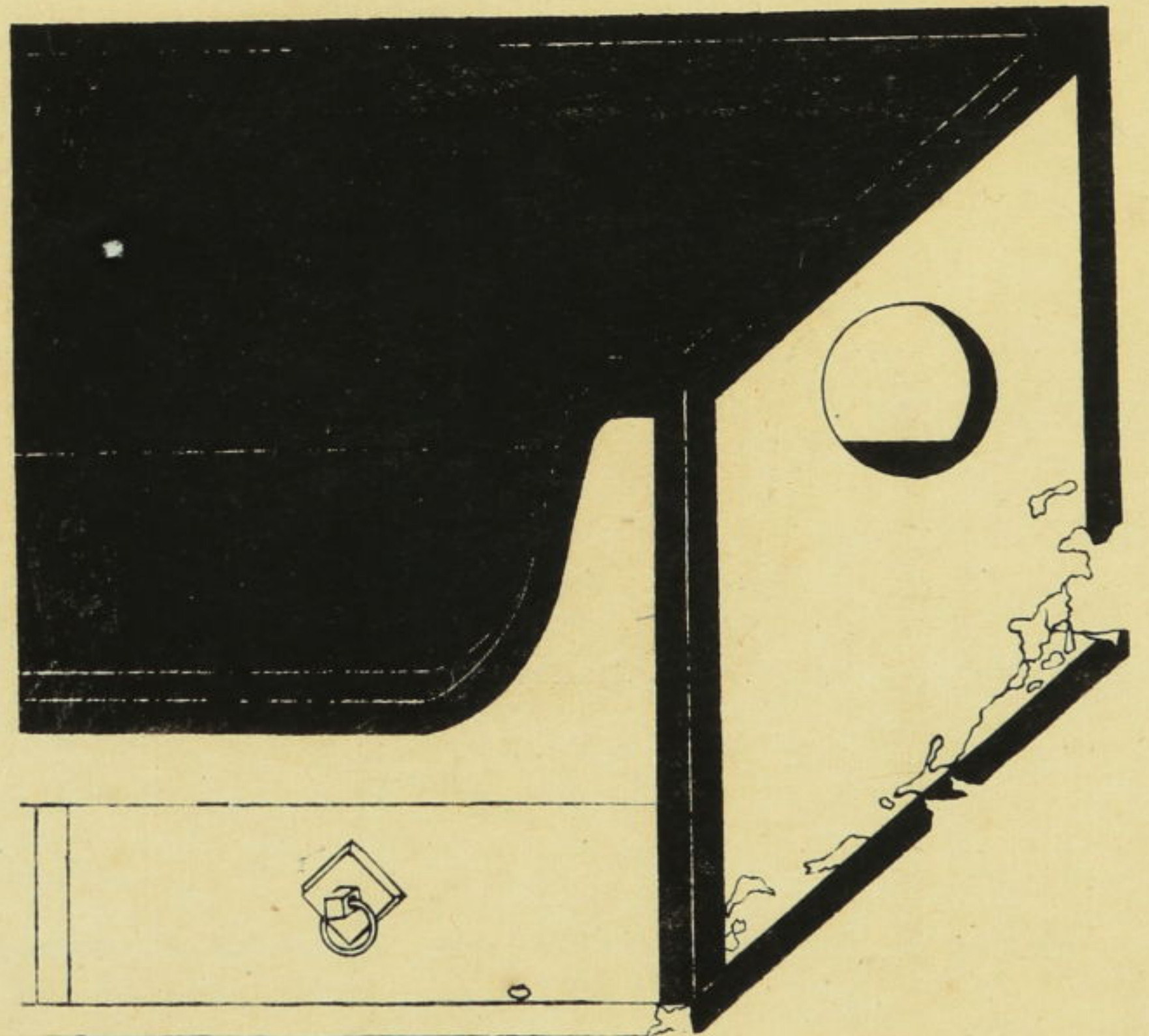
あつたての御名
りき大に長巻
の紙ありき
是れ浪士の御
名三右衛門
の紙ありき

三浦屋四節左衛門店蓑盆

貞享元祿の以遊女乃用ひる不あり

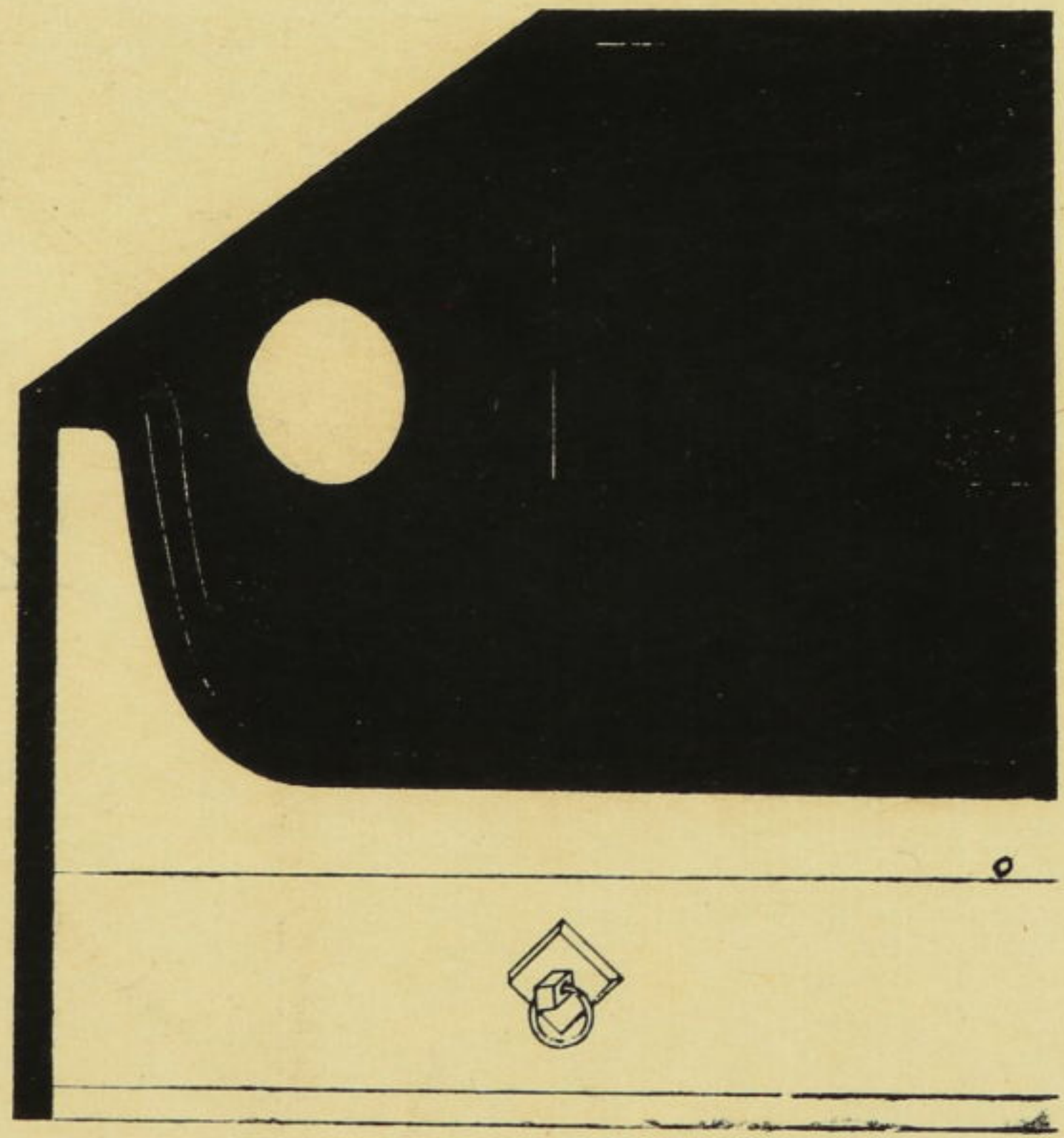
長井十足藏

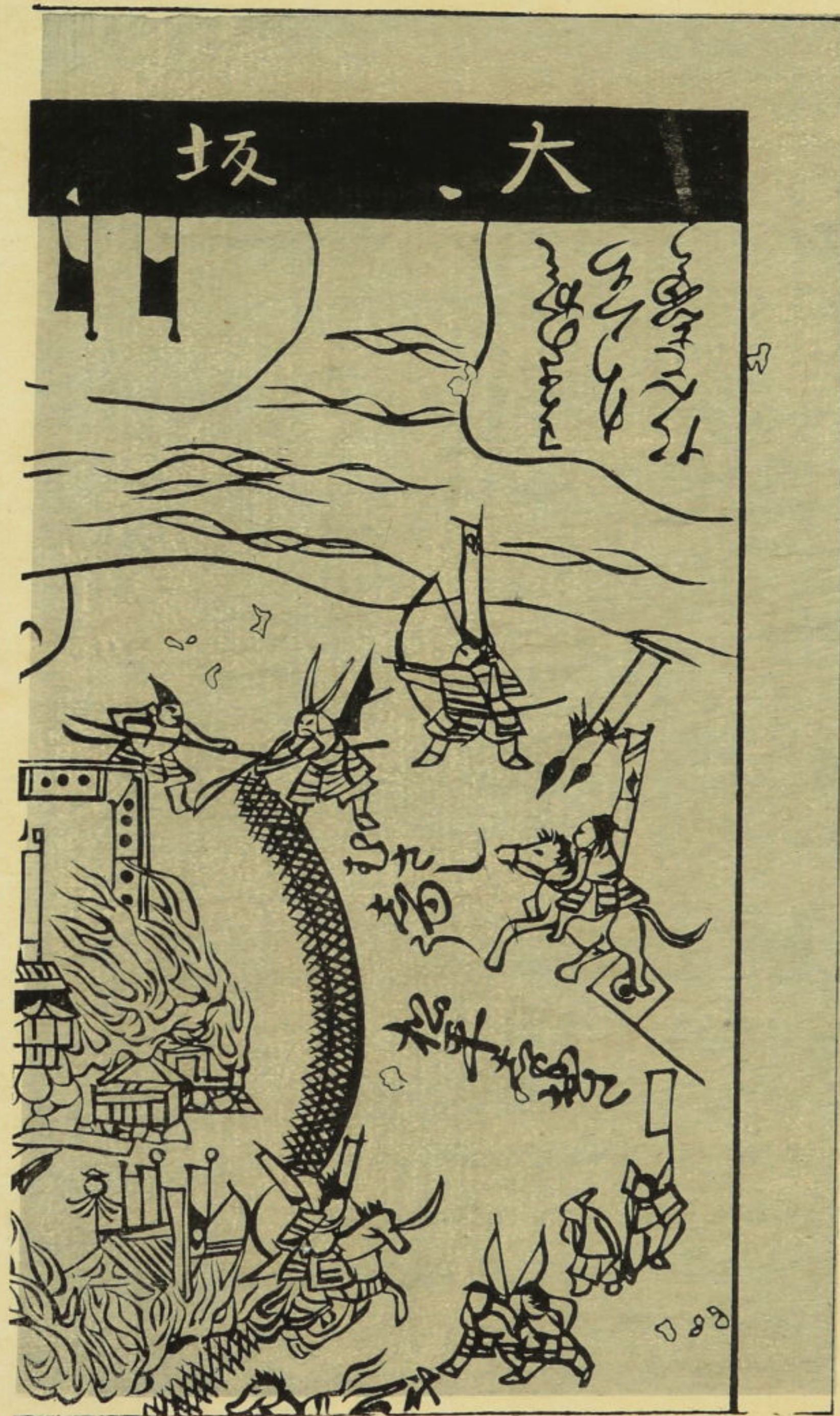
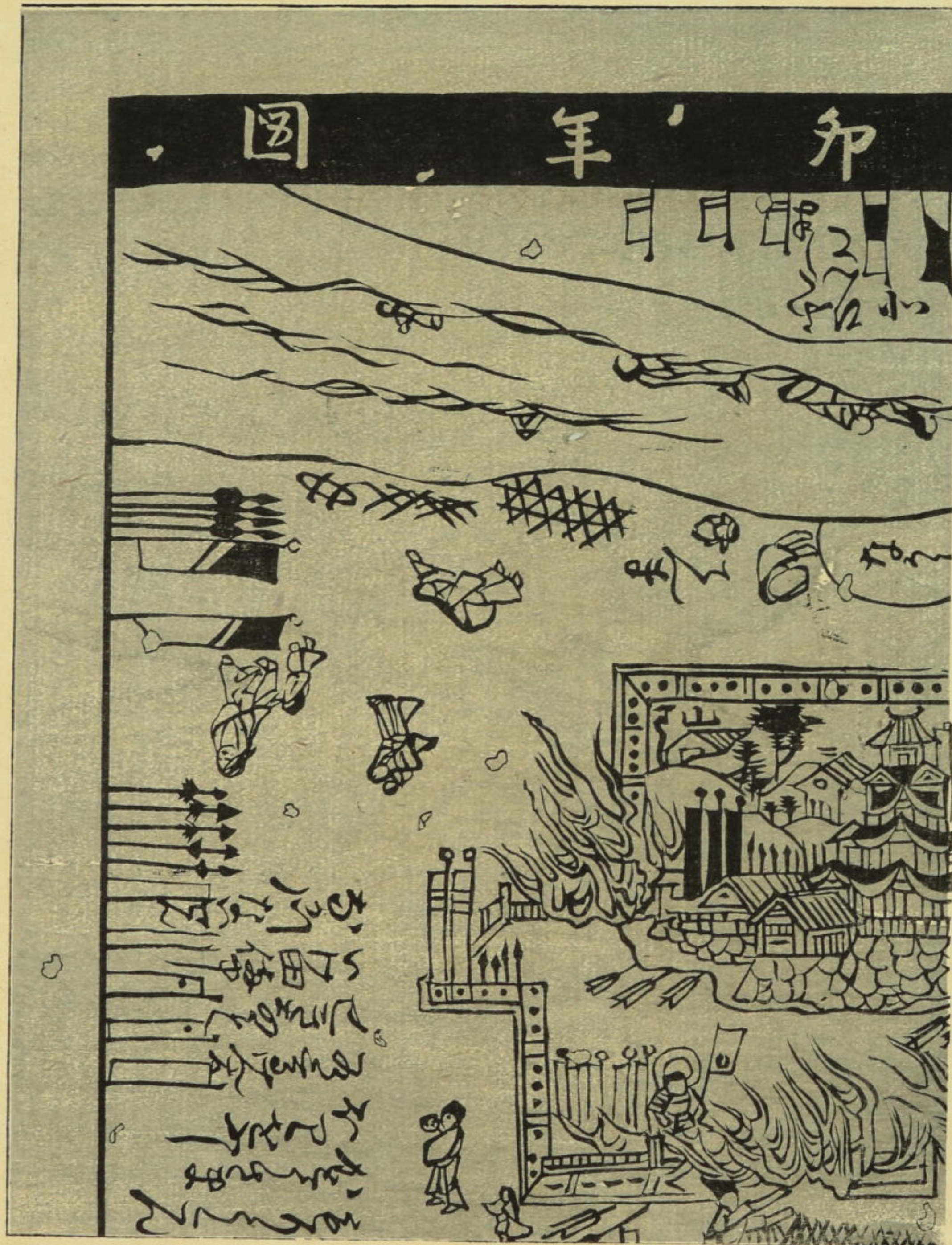
高四寸一分横九寸五分
 奥五寸
 奥出大の方横五寸
 小の方同三寸五分
 懸朱内墨塗ひき出し
 金ふ赤銅



三浦屋

裏は此とき彫り及あどがすすむ
 ちんちん

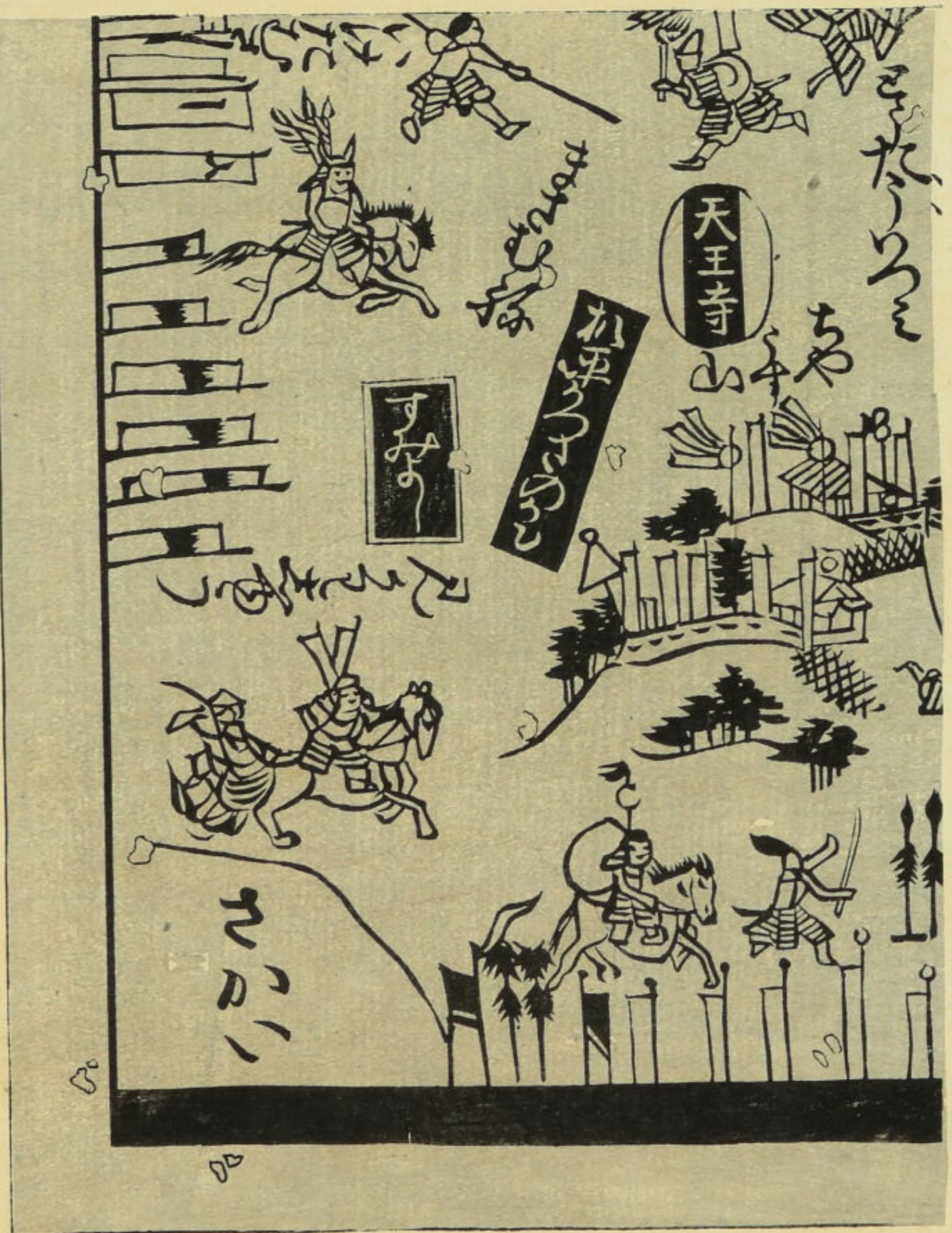




大坂落殊圖

元和元年五月平定の時江戸乃心を結めん為ふ坊宿坊賣歩り
 たるものあまは是則らみ妻の濫籬あり天保のけし或家の破屏風
 乃下張るる出たるを借へ得るる

高島華泉藏



紀伊國屋文左衛門真跡

初代文左衛門敬雨の男

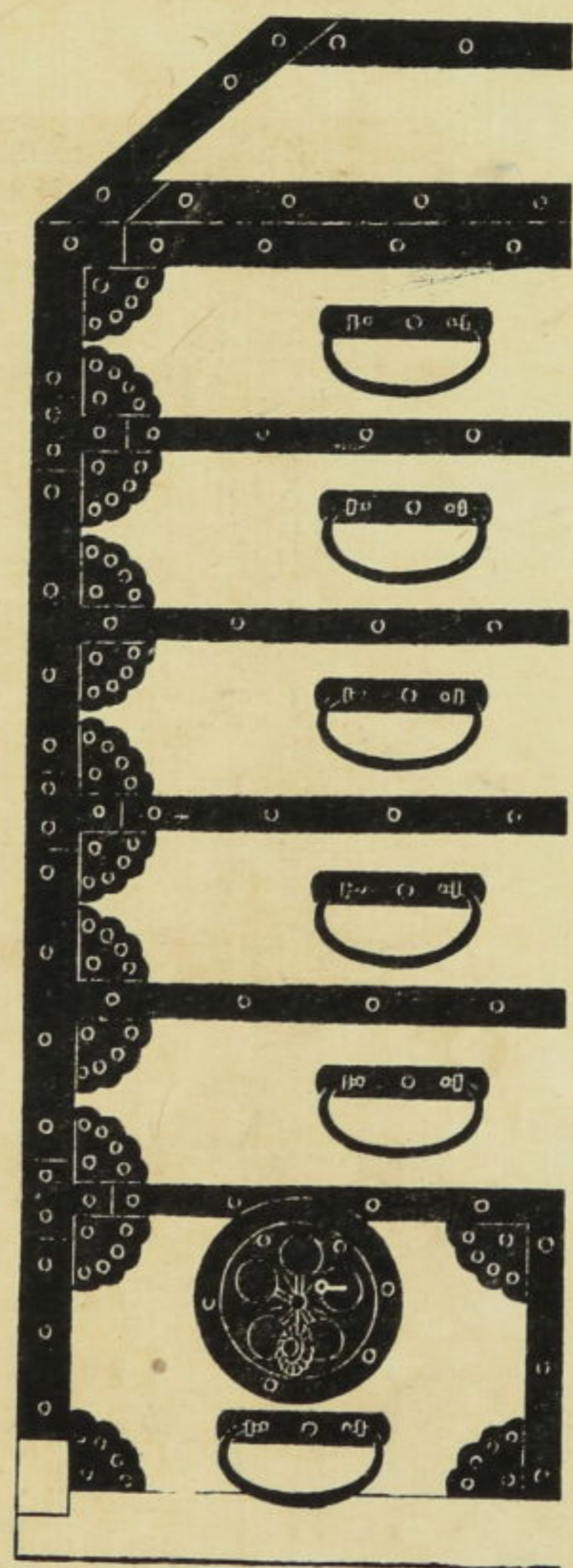
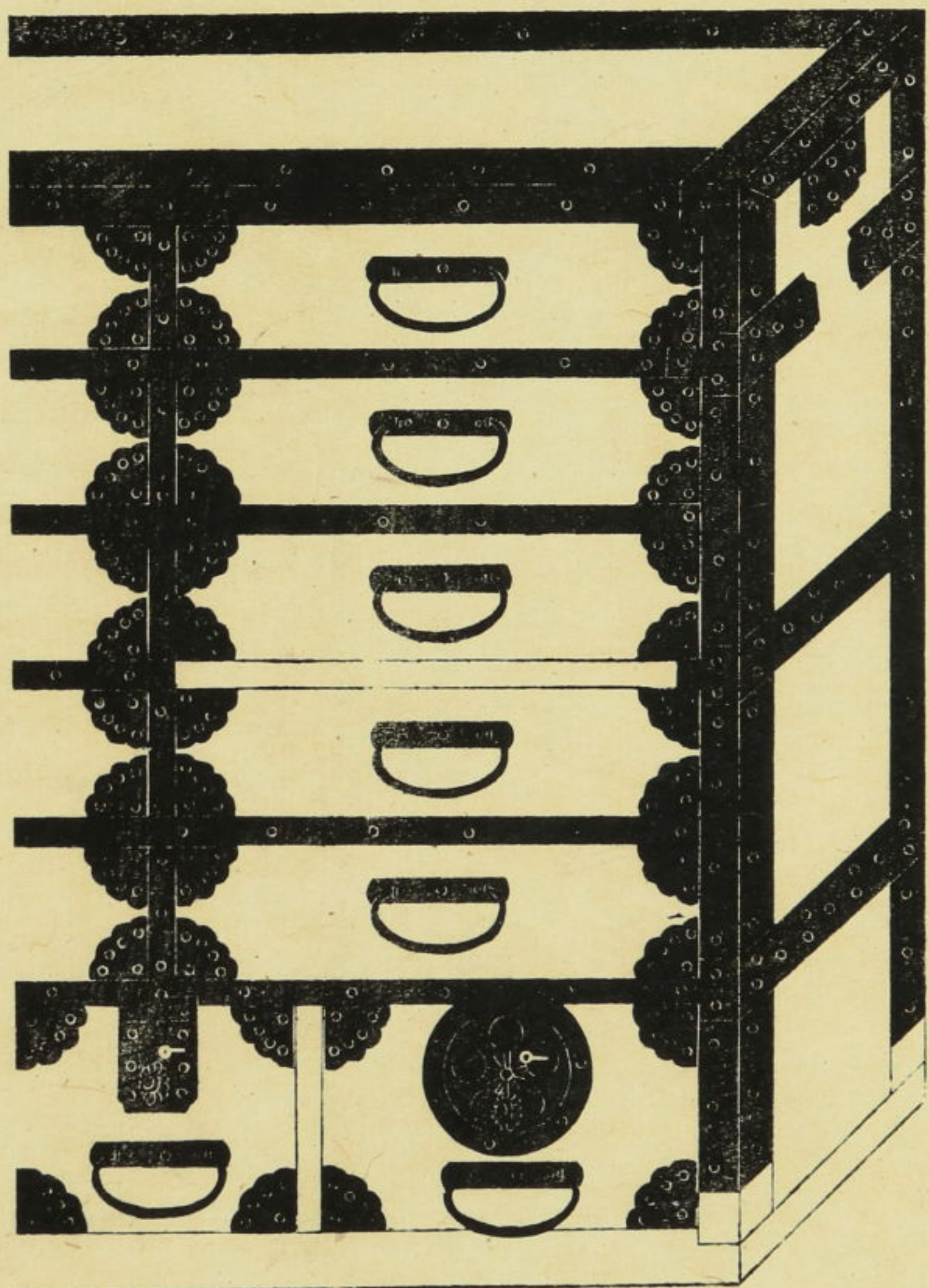
三谷三友藏

夕陽の影を
 照らす海
 の波
 静かに
 揺れる

夕陽の影を
 照らす海
 の波
 静かに
 揺れる

釘屋簞笥

寸法 丈一尺九寸余 横一尺九寸余 深廿六寸四分余
惣相よく金物積利れりまの程ひの足し来



寛永の頃より江戸各地に増繁盛なりけり此物
小家建てるもの多しと金物屋などといふ店に稀れ
里をれり市中に普清坊へ此簞笥を買い来り釘
及び鑿池乃影を記すを多し成以て釘屋たんとすといふ

高島華泉藏



繪
字

菱川師宜繪卷物比翼筵
 絹本極彩毫末田南畝
 山東京信歎跋



饗庭詠藏

元禄二年大坂所觸

原紙中奉書書雨一人家小所
出雲ハ多耐乃大坂所奉所被瀬出雲守之

鈴木乃知花

頃日町子て女子に松より
屋敷口後老の候お守
有首を以申に申

元祖段十郎人形

木彫丈二寸九分衣服吉野廣東帶黒縹子

高畠藍泉藏



背面



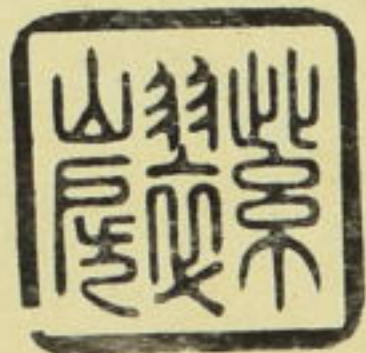
芳百富

奴人形ハ天和貞享の頃を成盛に経たる俳優法道外形坊主小兵衛ハ六方
出云は五月の兎人形所作里小吉野人形と稱したるは始りて段十郎
小吉野と云ふ兎人形につらりて世々としてをされり此容貌ハ鳥居風を画く
あつと云ふ面は似されば荒事の元祖段十郎の人形たる事疑ひ無し

明治二十三年三月十日印刷 同年三月二十五日出版

編纂

高田藍泉



東都書肆青山堂雁金屋

青山清吉藏版



小石川傳通院前大門町

